

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画**

| | |
|------------------------------|----------------------------|
| 事業名(主) | ウィズコロナ地域活動再開計画 |
| 事業名(副) <small>※任意</small> | 持続性を意図したコミュニティビジネスの視点で支援する |

入力数 主 14 字 副 26 字

| | |
|---------|-----------------|
| 資金分配団体名 | 特定非営利活動法人 ACOBA |
|---------|-----------------|

| | |
|-------|--|
| 実行団体名 | |
|-------|--|

優先的に解決すべき社会の諸課題

| 領域 | 分野 |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動 | <input type="checkbox"/> 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 |
| | <input type="checkbox"/> 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動 | <input type="checkbox"/> 2)-④働くことが困難な人への支援 |
| | <input type="checkbox"/> 2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 | <input checked="" type="checkbox"/> 3)-⑥地域の働く場づくりの支援 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援 |

| | |
|------------------------|--------------------------|
| 上記以外 その他の解決すべき社会の課題 | <input type="checkbox"/> |
|------------------------|--------------------------|

入力数 0 字

| | | | | | | | |
|------|----------------------|------------|---|---|---|-----------------|------|
| 実施時期 | 2020/12/1 ~ 2022/3/1 | 事業 対象地域 | 全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (千葉県) | 事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む) | ・地域課題に取り組む団体及びNPO等 ・上記の組織に所属し、事業に関わる職員 ・活動を支援する地域住民 ・放課後活動で居場所を無くしている子ども達 ・その子どもの親や生活に困窮する大人達 | 事業 対象者人 数 | 600人 |
|------|----------------------|------------|---|---|---|-----------------|------|

I.団体の社会的役割

| | |
|----------------|---|
| (1)団体の目的 | 当法人は、県内東葛・北総地区にネットワークを持ち、コミュニティ・ビジネスの視点で自らも事業を行い、財政基盤を確保しつつ、地域の市民活動や地域課題の解決に取り組む人・団体を支援している。設立以来15年の間には千葉県の指定管理業務や様々な補助金事業、委託事業をこなしてきた。そんな実績とノウハウを持つ当団体であるからこそ、この度の休眠預金による支援事業に取り組む使命があると考えている。 |
| (2)団体の概要・事業内容等 | <ul style="list-style-type: none"> ・収益事業 指定管理者事業（千葉県福祉ふれあいプラザの運営） インキュベーションオフィスの運営事業 千葉県・茨城県の福祉サービス第三者評価・外部評価事業 ・非収益事業 地域ビジネス支援事業、ホームサービス事業（便利屋）、 いきいき生活倶楽部まほろば事業（高齢者の相互交流） 柏事業所プロジェクト（セミナー事業） 開発事業部（新企画や新受託事業など） |

入力数 (1) 190 字 (2) 182 字

II.事業の背景・社会課題

| | |
|--------------------------|---|
| 新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 | <p>・事業対象者の抱える問題・課題とその要因</p> <p>今後当然の間、withコロナの状態が続く。経済活動の多くが停滞、縮小を余儀なくされ、企業・雇用・教育・生活の中で様々な格差が広がろうとしている。地域社会の課題解決に取り組むNPOは基本的に経営基盤が脆弱で、コロナ禍でその活動にブレーキがかけられた。子ども達自身、放課後活動にも様々な制約を受け、その居場所などをサポートするNPOは、【集まる】という活動の基盤を失い、収入の道が閉ざされ、直接その影響を受けている。</p> <p>・問題はより深刻化、顕在化</p> <p>親の方も雇用の不安を抱え、特にひとり親家庭における影響は深刻である。収入が減少した上に、預け先のなくなった子どもの世話がのしかかり、食事も満足に与えられないなど様々な問題が顕在化しつつある。更に高齢者は精神的、身体的に引きこもらざるを得ず、施設利用者は特に課題山積で深刻である。コロナ禍で格差社会がより広がりを見せる中、地域課題の解決に取り組んでいるNPO等の経営・運営管理に与える影響も計り知れない。</p> <p>・その社会課題に対して考えられる解決の必要性、緊迫性</p> <p>困窮する家族を支える地域活動の火を消してはならないのに、その活動の中心となるNPOが経営・運営管理において困難を抱えている。活動継続のために新たな視点で計画を立案し、事業構築が求められるが、その計画を推進するための資金と人材・経営的視点の支援が急務である。</p> <p>・上記内容の調査・情報源</p> <p>市民活動ボランティアセンター、市民ネットワーク及びネットワークのある活動団体、個人からの情報などで収集している。</p> |
|--------------------------|---|

入力数 672 字

III.事業

| |
|---|
| <p>(1)事業の概要</p> <p>コロナ禍で、大人は雇用の不安を抱え、高齢者は精神的、身体的に引きこもらざるを得ず、子どもは学業や放課後活動の制約の中で多くの不安を持っている。一方、地域の課題に取り組むNPO等は活動が制限され、事業の縮小により経営的に困難な状態にある。当法人は、コロナ禍で職場を失った人材を活用し、子ども達の学習支援・食事のサービスを通じた居場所作りやオンライン学習の整備などを行い学習機会の充実に取り組む。本事業を通じて、コロナ禍で仕事を失った人の新たな職場ができ、NPOは新規事業の計画・推進ができれば、地域の活性化に繋がる。中間支援団体として、当法人は1年間の伴走支援を通じて事業推進を支援する。</p> |
|---|

入力数 294 字

| (2)活動(資金支援) (実行団体の活動想定) | 時期 |
|--|-------------------------|
| <p>活動想定案① 「家庭環境のお困りごとにかかわる支援事業の拡充」</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、育児・介護家庭、ひとり親家庭などへの支援がこれまで以上に必要となっている。これらのお困りごとに対する支援を行っている団体では、人材不足や高齢化などに伴い、十分な活動ができていないという悩みを抱えている。これらの問題解決をはかるために、①コロナで職場を失ったスキルの高い人材を確保して、地域の就労につなげる。②その人材を活用して、課題を抱えている家庭の「子どもの居場所」として、学習支援、食事の支援などを行っていく。</p> | <p>①2021年3月～2022年2月</p> |
| <p>活動想定案② 「オンラインを活用した児童・生徒・学生の学習環境整備事業」</p> <p>新型コロナウイルスの影響により稼働が難しくなった学習支援機会の創出のため、オンライン環境を整備し学習機会の再稼働を行うに加え、自宅にオンライン環境のない家庭も想定した環境整備を行う。</p> | <p>②2021年3月～2022年2月</p> |

| (3)活動 (資金分配団体による伴走支援) | 時期 |
|---|-------------------------|
| <p>・プログラム・オフィサー(PO)に影山貴大氏を選任し、伴走支援のキーマンとする。</p> <p>略歴:松戸市、鎌ヶ谷市、印西市などにてNPO支援センターのコーディネーターを歴任。2014年にまちづくりコーディネート業務を行う。</p> <p>合同会社J-doc companyを設立、代表社員に就任。数々のまちづくりプロジェクトに関わる。NPO、行政、企業、それぞれの立場を経験しているため、それぞれの視点に立ったバランス感覚のあるコーディネーションに定評がある。支援活動においては、計画立案・企業連携・親近調達にも関わった。また鎌ヶ谷市においては、行政内部においてNPO団体向けの助成金制度事業の策定・実施を行い、申請団体への伴走支援も行っている。(影山POのプロファイル及び助成金制度実績は、別途添付資料に記載)</p> <p>・伴走支援の活動として以下を実施していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実行団体主要メンバーへの研修会の実施 2. 事前評価、事後評価の実施 3. 毎月の実行状況の把握、事業実施における助言 4. 事業の実施状況、取組み事例の共有に関する情報公開等 | <p>2020年12月～2022年3月</p> |

| (4)今回の事業実行を通じた目標 | 実施・到達状況の目安とする指標 | 把握方法 | 目標値/目標状態 | 目標達成時期 |
|--|--|--|--|-----------------|
| <p>実行団体の事業実施にかかる目標</p> <p>①オンライン等やコロナ禍におけるニューノーマルを意識した新たな場が創出されている</p> <p>②本事業を通じた事業対象地域に住む住民や、事業対象利用者によりサービスが届いている</p> <p>資金分配団体としての事業実施にかかる目標</p> <p>①資金分配団体として、選定された実行団体の事業推進が計画通りに進行する状態</p> <p>②実行団体のアウトプットが目標通りに進行し、アウトカムを生むことが出来る状態</p> | <p>①-1 子ども食堂活動団体数</p> <p>①-2 「子ども・若者オフィス」の実際の開設</p> <p>②-1 就労準備のトレーニング施設利用者数</p> <p>②-2 障がい児のための運動動画配信回数と延べ視聴回数</p> <p>②-3 コミュニティプレイス「ごちゃにわ」の延べ利用者数、延べ利用世帯数、来訪者の居住エリアを集計する</p> <p>①毎月事業進捗確認</p> <p>②事業終了後の各実行団体事業達成率</p> | <p>①-1 団体の立上げ数、あるいは既存の団体の意思表示数</p> <p>①-2 実際のオフィス開設実績</p> <p>②-1 施設利用者数のカウント(申込書受領)</p> <p>②-2 LINE連絡網での配信、スマイルクラブの公式YouTube</p> <p>②-3 高野山小学校児童にチラシを配布。また、高野山学区内にある幼稚園、我孫子市内の保育園にポスターを掲示し、事業を周知する。利用ごとにチケットや回数券を発行して利用者数を把握する。</p> <p>①月1回の進捗共有及び事業実施にかかる相談対応数</p> <p>②各団体の設定したアウトプットの達成率</p> | <p>①-1 最低2団体、最大でも5団体</p> <p>①-2 Trist Airport (サテライトオフィス)に実際に「子ども・若者オフィス」を併設</p> <p>②-1 のべ50人に就労準備トレーニングを実施</p> <p>②-2 LINE連絡網(700人)配信(6回)、YouTube動画の視聴回数延べ1000人</p> <p>②-3 市内でも特に「ごちゃにわ」設置予定の高野山学区内1664世帯のうち子育て世帯約500世帯(高野山小学校在籍世帯数)の70%が「ごちゃにわ」の存在を知っており、さらに40%の世帯が活用したことがある②我孫子市内の子育て世帯30世帯が、毎月3-4回、継続してこの場所を利用する。</p> <p>①12か月×5団体=60回</p> <p>②全アウトプット達成率90%以上</p> | <p>2022/2/1</p> |

| (5)事業実施後(1年後)以降に目標とする状態 |
|--|
| <p>・各団体が構築した事業が助成終了後も継続していけるための運営体制が構築されている</p> <p>・もしくは事業実施後にその後の事業展開において、より多くのターゲットに団体事業を提供していける基盤体制が整っている</p> |

入力数 98 字

IV.実行団体の募集

| | | | |
|-------------------------------------|---|-----------------|------------|
| (1)採択予定実行団体数 | 5団体 | (2)1実行団体当たり助成金額 | 300万～600万円 |
| (3)申請数確保に向けた工夫 | <p>(1) 現段階で申請が見込まれる団体数 8団体 (2) 目標とする申請団体数 15団体 その具体的取組み方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人ホームページへの掲載 ・SNSでの発信 ・ネットワークのある団体への事前PR (約60団体) ・事前説明会の開催(10月) リモートスタイル (ZOOM) で2回実施 | | |
| (4)予定する審査方法 (審査スケジュール、審査構成、留意点等) | <ul style="list-style-type: none"> ・審査スケジュール 資金分配団体の決定 (2020年12月) →ZOOMを活用した2回の説明会の開催 (2020年12月) →実行団体の企画書提出期限 (2021年1月) →審査会の開催 (2月) →実行団体の決定・公表 (2月) →資金分配団体から実行団体への助成金交付 (2021年3月・8月) ・審査会構成：審査委員は、学識経験者・地域における市民活動家・企業経営コンサルタント・行政に関わる人材を予定する。 ・留意点：①それぞれに千葉県地域に詳しく市民にネットワークを保持する人 ②事業経営及び支援に携わり、又地域活動に造詣が深い人を選任する。 | | |

V.事業実施体制

| | |
|--------------------|---|
| (1)メンバー構成と各メンバーの役割 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネジャーはプロジェクトの総括を担当する ・プロジェクト推進班を2名専任、メンバーはプロジェクトの推進班として実行団体と直接かわる ・管理担当を4名配置し、プロジェクト事務局として経理事務、書類整理ととりまとめ、諸連絡などを行う ・広報担当を2名配置し、ホームページ掲載及びパンフレットなどの作成などを行う ・POを選任し、伴走支援の担い手の役割を担当する |
| (2)他団体との連携体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県 (県民活動・文化課) ・県内のNPO団体 (メルマガリスト-5000団体) に対し、実行団体公募に関する広報をする。また、その他本事業に関する情報を随時公開する ・我孫子市 (市民活動支援課) <p>担当課長が審査員として事業に参画する。また、その他本事業に関する課題をサポートする。</p> |
| (3)想定されるリスクと管理体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症の第2波、3波の到来によりプロジェクトが停滞する恐れがある。その場合はスケジュールの変更と延長を検討いただく。 ・実行団体の事業実行には、POとプロジェクト推進班メンバーの協働の事態把握と支援により不適切な事態が起きないよう、万全を期して取り組む。 ・万一助成金返金の事態になった場合は、責任を持って実行を迫る。 ・助成金は年2回に分けて交付する |